

1. 科目名 (単位数)	幼児教育実践演習 (2 単位)	3. 科目番号	SJMP6312
2. 授業担当教員	関口 はつ江		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	S
7. 講義概要	<p>幼稚園、保育所、認定こども園等における実践に関する論文講読、および保育現場への参加観察等を通して、複雑な実践状況を的確に把握し、課題等を発見し、改善への方策を考える力を養う。本授業では、幼児教育を「教育と保育の一体的過程」として考え、保育の具体的状況の展開過程分析、子どもと保育者との関係や内面の理解とを演習形式で学ぶ。</p> <p>授業参加者の基礎体験、保育についての知識の量に幅があることが予想される。保育を取り巻く現実的問題を導入として、現在の保育実践法の理解へと進める。授業の進行状況に合わせて、柔軟な進行を考えている。授業は学生が交代でレポーターの役割をとって話題提供をする方法をとる。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの生活と経験の基本的特質の理解を深める。</li> <li>2 実践とは何か、幼児教育実践の特質理解を深める。</li> <li>3 現在の、多様な幼児教育実践法の違い、実践上の課題を理解する。</li> <li>4 文献 (実践に関する論文等) からの読み取りと実践現場における読み取りの両方を目指す。</li> <li>5 実践状況を分析的にとらえる力を養う。</li> <li>6 実践を捉える視点をもち、的確に評価できるようになる。</li> </ol>		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 子どもの生活実態、幼児教育の社会的位置づけや理解、保護者の意識期待等今日的課題を考察してレポートする。(レポートの書き方、資料等については初回の授業にて伝える)</li> <li>2 幼稚園、保育所、認定こども園のいずれかを観察し、または資料によって生活の実践記録を研究し、保育実践法、子どもの生活実態、保育上の課題をレポートする。 (観察園、資料、記録のとり方、分析、まとめ方は事前に打ち合わせる)</li> </ol> <p>最終レポート</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3 多様な保育実践法 (縦割り保育、チーム保育、オープンエデュケーション、野外保育、モンテッソーリ法、才能教育その他) の 1, 2 の例を選択し、保育見学または資料を通して、その実践が目指している理念とその実践状況、教育効果の関連分析をし、レポートする。 (観察園、資料収集等については事前に打ち合わせる)</li> </ol>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 特に指定なし 基本的なものは授業毎に提示する。示されたものの中から選択して講読のこと。重要な部分は印刷して事前に配布する予定。授業進行に合わせて、最近発表された論文教編を紹介し、授業教材または参考資料として扱う。</p> <p>【参考文献】 「子ども学」 vol 1 (保育の質を問う、子ども文化の創造) 萌文書林 2013 「子ども学」 vol 7 (子ども学研究への提言、子どもと環境、保育記録) 2019</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 論文の研究目的、方法、結果、考察の関連の理解ができ、要点をまとめることができるか</li> <li>2 我が国の保育制度、保育の実践実態についての知識、理解の習得と共に自分なりの見方ができるか</li> <li>3 現場の観察記録と保育の考察ができるか</li> </ol> <p>○評定の方法</p> <p>日常の授業態度 (発言、出席状況) 40 % レポート (3 回) 60 %</p>		
12. 受講生へのメッセージ	<p>幼児教育の理論や実践について、時代の流れや識者の意見にとらわれずに、真に「実際に即して」「子どもを通して」考える姿勢を大切にします。また、論文を丁寧に読み、論文作成法を学ぶと共に、率直に疑問を持ち、課題を発見するようにして下さい。</p> <p>授業では、わからないことを自由の出し合える雰囲気を作りたいと思います。</p>		
13. オフィスアワー	時間割が決められてから、指定します		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1～2. テーマ	幼児教育実践の今日的課題 1 —社会的背景、制度的側面—		
【学習の目標】	現在わが国の幼児教育を取り巻く社会的背景を理解する		
【学習の内容】	幼児教育の学校教育、家庭教育、社会教育における位置づけ、社会的ニーズについて理解し、理念と現実、親の期待と子どもの実態間のずれ等現実的問題を考察する、		
【キーワード】	幼稚園、保育所、子ども園等における子どもの生活、保育内容、幼児教育への期待等今日的課題をレポートし、問題の所在を討論する		
【学習の課題】	幼稚園、保育所、子ども園等における子どもの生活、保育内容、幼児教育への期待等今日的課題をレポートし、問題の所在を討論する		
【参考文献】	<p>幼児教育の目的、学校教育としての幼稚園、義務教育の基礎 幼児の生活実態 社会・家庭のニーズ</p> <p>生涯発達過程としての幼児期に教育されるべきことはなにかを、学校教育としての幼児教育、および家庭・地域の教育の補完としての視点から探る。</p> <p>教育基本法 学校教育法、幼稚園教育要領、 佐藤・広田編著『変貌する教育学』世織書房 加藤繁美『早期教育が育てる力、奪うもの』ひとなる書房 1995 パトリシア・チャーランド『脳が作る倫理』化学同人 2013</p>		
【学習する上での留意点】	現在の保育を取り巻く環境について、改めてその状況を捉えなおし、実践と環境条件との関連を考察する。		
3～4. テーマ	幼児教育実践の今日的課題 2 —子どもの生活実態と発達、—		
【学習の目標】	現代という生活環境と子どもの育ち方から幼児教育・保育のあり方を考える、		
【学習の内容】	現代人の暮らし方の子どもの発達への影響を、子どもにふさわしい生活の保障内容について理解する、		
【キーワード】	都市化 効率主義 生涯発達における乳幼児期の意味 乳幼児の発達の特性 子どもの自己形成空間		
【学習の課題】	保育と教育・養護の関連を明確にし、幼児期に必要な体験を確認する、		
【参考文献】	渡部信一『ロボット化する子どもたち—学びの認知科学』大修館書店 高橋勝『経験のメタモルフォーゼ—自己形成の教育人間学—』勁草書房		

【学習する上での留意点】 現代社会が幼児期の自発的、主体的な発達環境としてどのような特徴を持っているのか、常識的一般論にとらわれずに客観的、実証的に考える。	
5～7. テーマ	幼児教育実践の今日的課題3 —保育の場の多様化—
【学習の目標】	わが国の施設保育（幼稚園、保育所、認定子ども園、地域型保育施設）が多様な場で実施されていることの必要性和問題点を考察する
【学習の内容】	幼稚園、保育園、認定子ども園のいずれかを訪問、または保育の実践記録を研究し、子どもの一日の生活実態の比較、保育上の課題のレポートを作成報告し、討論する
【キーワード】	教育課程、全体計画、生活日課、生活習慣形成、遊びの展開、保育者と幼児の関係
【参考文献】	「就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律」他、幼稚園、保育所、幼保連携型認定子ども園に関する法律、条令 等
【学習する上での留意点】	子どもの生活や人間関係の展開等保育のプロセスを具体的に、また子どもの立場からとらえて考察する。環境に規定される子どもの立場と子どもの適応への過程に着目する。
8～10. テーマ	幼児教育実践研究1 —保育的關係形成と省察—
【学習の目標】	保育者は、実践主体者としてどのようにして子どもと関係を結び、保育を展開するか、自分の保育の振り返り、他者との共有、その過程と困難さ等を理解する。
【学習の内容】	保育は保育者と子どもとの保育的關係の形成が基底にあること、子どもの行動を保育者に向けられた表現と捉え、どのようにして活動をささえ、充実・発展をはかるか。保育者個々の体験をどのように共有するか等について考察、討論する。論文講読・実践映像。
【キーワード】	保育行為 保育者と子どもの相互作用 子どもの行為の解釈 保育の省察
【学習の課題】	保育的關係形成はどのようになされるのか、教育、養育の方法による違いを具体的に把握する。事例、自分の体験（日常的な体験も含めて）についてレポートする。
【参考文献】	ジーン・レイブ他『状況に埋め込まれた学習』産業図書 津守真『保育の体験と思索』大日本図書
【学習する上での留意点】	概念的な言葉を自分の言葉で吟味、説明し討論する。各自の実践（観察等）事例との関連の検討に努める。
11～13. テーマ	幼児教育実践研究2 （相互主体性とエピソード記録）
【学習の目標】	保育における保育者・子どもの関係を相互主低的な関係とする理論の理解
【学習の内容】	保育における保育者と子どもの関係を相互主体的関係とする立場からの具体事例を考察し、エピソード記録の書き方を理解する。論文講読・実践映像。
【キーワード】	相互主体性 間主観性 エピソード記録、観察記録
【学習の課題】	保育過程の体験の仕方、「エピソード」の意味、観察者記録と保育者記録の違い等を扱う。エピソード記録を読み、実践者の認識の仕方、他の記録との関連を考察する。
【参考文献】	鯨岡峻『ひとがひとをわかるといふこと 間主観性と相互主体性』ミネルヴァ書房 マイケル・ブブア他『質的研究法キーワード』金子書房 鯨岡峻『エピソード記述入門』東京大学出版会 鯨岡峻・鯨岡和子『エピソード記述で保育を描く』ミネルヴァ書房
【学習する上での留意点】	同上
14～15. テーマ	幼児教育実践研究3—保育の反省評価—
【学習の目標】	現在実践されている多様な保育の根拠及び、今期待されている「生きる力の基礎」となる保育実践の根本を踏まえて、評価基準の意義、PDCAのための評価の在り方について考察する。
【学習の内容】	文献により、保育における評価基準の役割を理解する。多様な保育実践現場のいくつかを選択し、保育見学または資料を通して、その実践がめざす理念とその実際を捉え、評価を試み、考察する。保育は制度的・社会的・政治的・経営的な要請、創設者の理念、実践者の力量等、多くの条件下におかれている。「個々の幼児の生活の充足と育ちの保障」の根本を踏まえて、総合的な評価の在り方を考察する。
【キーワード】	幼児の発達保障、教育・保育課程と実践法、保育実践の倫理 保育評価
【学習の課題】	各自が身近な保育実践、または課題性を感じる保育実践例を詳細にレポートし、討論を通して評価しあう。レポート内容、期日は事前に打ち合わせる。
【参考文献】	久富陽子、梅田優子『保育方法の実践的理解』萌文書林 ピーター・シンガー 山内他訳『実践の倫理』（第2章平等とその意味するもの）第12章（なぜ道徳的に行為するのか）昭和堂 イラム・シラージ他著秋田・淀川訳 『「保育のプロセスの質」評価スケール』明石書店 後日 最近の関連論文を指定する
【学習する上での留意点】	自分の視点からの「保育実践を見る目」を確かにするために、互いの意見を尊重しつつ、主観や先入観にとらわれずに充分納得いく議論をする。